

## あ と が き

本核データニュースが電子版になって、早くも3年目に入った。86号は電子版5冊目になる。今度のあとがきはお前の番だとの編集委員長の命令である。しかし白状すると、電子版になったニュースを読んでいない。アドレスを忘れてたり、アドレスを打ち間違えて、何回も入力し直すとイライラする。ずっとウェブサイトアクセス出来ないことが多いので、本誌のみならず、すっかり億劫になってしまった。便所にしゃがんで前を見ると、右を見ろとの落書きがある。右を見ると左を見ろとある。左を見ると「きよろきよろするな」と書いてある、という笑い話ではないが、指定に従って次から次へとクリックしても、こちらが思うようなものに到達しないこともある。「検索」に訴えても、極めて多数の項目が出てくる。しかも似たようなものが並んでいる。狙いをつけてダウンロードしても、終わりまで読み込まないと出来ませんときた。時間だけがやたらとかかる。「年寄りにはせつかなのだ。待ってられるか」という次第。

と、まあここまで書いてきて我ながらひどい内容だと思うので、少しましな話を一つ。昨年(2006)発行された Los Alamos Science、30号という雑誌にチャドウィックが「核兵器の性能維持に必要な核データデータ」という論文を書いている。LANSCE という例の陽子加速器がらみの予算獲得ためのアピールだろうが、この研究所のミッションは核兵器の開発や性能維持にあり、未臨界核実験もこの研究所が実施していることを、改めて思い出させるものである。むろんこの号には、原子力発電をプッシュするブッシュ大統領の2005年の演説を受けて、マイナーアクチニドを燃やし放射性廃棄物の量を減らすために LANCE の活用を強調する別の論文も載っている。この雑誌、ウェブサイトから見ることができる。因みに、26号(2000)はプルトニウム特集で、これはなかなか勉強になる。しかしそのアドレスを書いたメモが見つからず、ここにそれを書くことができない。まことに申し訳ない。

喜多尾 憲助

kitaoken@aol.com

### 核データニュース編集委員会

中川庸雄(委員長、原子力機構)、井頭政之(東工大)、岩本 修(原子力機構)、  
山野直樹(東工大)、吉田 正(武蔵工大)、  
[オブザーバ] 喜多尾憲助、[編集] 石橋貞子